

GP 台北 2016 参加記



2016/6/24 (金) -2016/6/27 (日)

花博公園

目次

この本について	2	2016年6月25日（土）	
GP 台北 2016 について	2	GP 本戦の朝	21
GP 台北 2016 への参加を決め、航空券と宿を購入	3	会場への遊歩道	21
GP 台北 2016 の参加オプション	4	朝食は洋軽食	22
GP 台北の本戦デッキを決める	5	本戦開始	23
		VIP 専用対戦ゾーン	24
		本戦対戦開始	25
		本戦の合間に青果市	26
		レベルの高いコスプレ	29
		VIP のお値打ち	30
		本戦終了	31
		士林夜市へ	32
		地下食堂街へ	32
		至福のかき氷タイム	34
		士林夜市を一回りして帰る	36
		ホテルに戻り、就寝	36
		2016年6月26日（日）	
		GP 日曜の朝	37
		ホテルを出て移動開始	37
		エントリーと朝食	38
		スーパーサンデー予選シールド	39
		ツイッターが突然の不調	41
		フードコートで昼飯	42
		似顔絵	44
出国の朝	6		
ゆるふわスタイル	6		
成田空港で手続き	7		
出国	7		
機内での3時間余	8		
入国	8		
通信を確保し高速バスに乗る	9		
昼は牛肉飯（カレー味）	10		
VIP エントリーとエタマスドラフト	11		
会場をぶらぶら	13		
飲料水	14		
Foiled Again ドラフト	15		
ホテルにチェックイン	16		
寧夏路夜市へ	17		
臭豆腐にチャレンジ	18		
寧夏路夜市を一回り	19		
ホテルに戻る	20		

無料のSOIドラフト	44	2016年6月27日（月）	
次のSOIドラフト	45	帰国日	54
艦これですか？	45	台北駅へ	54
GP会場を離脱	46	台北駅ダンジョン	55
迪化街でカラスミを買う	47	桃園空港行き的高速バスに乗る	56
西門町へ	49	桃園空港で朝食	57
フードコートでステーキを食らう	49	搭乗手続き	57
今夜も食後のマンゴーかき氷	50	出国	58
サウナに行こう	51	離陸	59
スペシャルマッサージ？	52	帰国	60
就寝	53		

この本について

本書は2016年6月24日（金）～26（日）にかけ台北花博公園で開催されたマジック・ザ・ギャザリングのグランプリ（GP台北2016）に、プレイヤーとして参加した筆者の記録です。

現地の金額表記は原則として通貨の元(台湾ドル)で行いました。

折しも英国のEU離脱が報じられ凄いの円高が進行していたのですが、おおむね1元は3.1～3.5円くらいと考えて良い感じでした。

GP台北2016について

本書を手取るような方であればおよそ説明の必要はないとは思われますが、

GP（Grand Prix;グランプリ）というのは、1年に50回くらい世界のあちこちの都市で開催されているカードゲーム「マジック・ザ・ギャザリング」の大会です。

世界中から 500-3000 人くらいのプレイヤーが集まって、日本でも 1 年に 4 回ほど開催されます。

GP 台北 2016（※ 1）は、台北で 2016 年に開催された大会ということになります。

ChainLinks Event（※ 2）が主催しました。

※1 <http://taipei.cleventsgp.com/>

※2 <https://www.facebook.com/cleventsgp/>

GP 台北 2016 への参加を決め、航空券と宿を購入

基本的に筆者は、近場（※ 1）の海外のリミテッド（※ 2）GP にはお金や有休に余裕があれば参加することをパターンにはしているのですが、台北はその距離と費用と食べ物の美味しさなどから**問答無用で行く**ことを決めていました。

このため 2015 年の 8 月に「2016 年の GP 予定」が発表されるなり、早々に日程を確保して、年明けの 1 月 16 日にバニラエアが行う「セール」にこの日程が対象になるなり、即座に金曜～月曜の便を申し込みました。セールでわずか往復 19170 円です。ただし、帰りの重量オプションを申し込んでおかなかったらしいのは失敗でしたが…（後述）。

また宿については、いつもの台北の「城美大飯店」を仮押さえしたものの、のちに会場が「花博公園」（※3）に確定し、さらに伊東さんがツイッターでつぶやいた格安ホテルの「インキューブ ミンチェン（品格子旅店 民權館）」（※4）が、地図で調べてみると会場まで徒歩で行けそうな場所であったため「あ、こりゃいいや」と自分も城美大飯店をキャンセルして 4 月 20 日に申し込みを変更しました。

※ 1 飛行機でせいぜい半日くらいの旅費の低い所。海外は中国や赤道のあたりまで。豪州や米国や欧州は圏外。

※ 2 筆者は「プレイヤー」としては構築はそれほど興味はありません。

※ 3 <http://www.taipei-expopark.tw/english/index.aspx>

※ 4 <http://inncube.com.tw/index.php?lang=jp>

GP 台北 2016 の参加オプション

最近の GP では、本戦参加のみならず「スリープイン」サービスや VIP 等のオプションがつくのが慣例であり、GP 台北もその例外ではありませんでした。

このため自分も GP 台北のサイトでプレイヤーのオプションを確認しました。

基本	2200 円	・ GP 台北 2016 本戦参加権 ・ 本戦プレイマット ・ ID カード ・ 《石鍛冶の神秘家》の本戦プロモ
スリープイン	2800 円	・ 「基本」の獲得できるものすべて ・ スリープイン・サービス
VIP	6000 円	・ 「スリープイン」の獲得できるものすべて ・ プレミアラウンジ使用权 ・ VIP 専用ペアリング ・ VIP 専用プレイエリア ・ GP サバイバルバッグ - 追加プレイマット - ドリンクウェア（マグカップ） - アーティストサイン優待券 3 枚 - ライフメモ - ペン ・ プレミア ID カード ・ VIP 専用サイドイベント優先受付列

正直なところ VIP に申し込んで貰い損ねなければプレイマット 3 種 4 枚が入った GP メルボルンに比べると同じ主催にしてはあまりお得感がなかったのですが、当時は追加のプレイマットを「VIP 専用プレイマット」と勘違いしていたこともあり、そもそも VIP はやはり快適でありスリープインとの差額 1 万円ほどを惜しむこともあるまいと判断されたため、ただちに VIP に申し込みました。

GP 台北の本戦デッキを決める

自分は普段あまり構築をやらない人間であり、そもそも台湾は「とにかく参加はする」ことだけを決めていたためフォーマットがスタンダードである時点でまずジャッジに応募したうえで、不採用になったので「デッキどうしようか」と考えたくらいです（笑）。

ことに5月のGP 東京2日目でジャッジをしながら見ている限り、上位のデッキがどれもこれもアヴァシンを4積みしたバントカンパニーだらけで正直これをコピーしても面白いとは思えなかったので「いっそ本戦は山60枚にして早々にサイドイベント行くか」とも考えていたものでした。

なのですが、6月頭にヘッドジャッジを勤めたPPTQで、たまたま決勝の白赤人間同士のマッチを見て「を、平地1枚でキープして回るんだ」「アヴァシンなんか出る前に勝負がつく速さなのかー」という感想を抱いたため「これでいいか」という結論に。

ただし白人間のパーツとしてはどう見ても《サリアの副官》は4枚必要であり、それから自分のストレージをひっくり返すと、アヴァシンは3枚ある癖にサリアの副官は1枚しかない（笑）。まあ、これは結局、台北に行く前の週に募ってトレードなどで集めましたが、どこぞの白単人間の完コピでなく、ところどころ変なものも入れてのデッキ完成。

Creatures: 25	Spell: 15	Sideboard: 15
《探検隊の特使》*4	《グリフの加護》*3	《ランタンの子候》*4
《アクロスの英雄、キテオン》*2	《石の宣告》*4	《往時の主教》*4
《町のゴシップ屋》*4	《停滞の罨》*4	《キテオンの不正規軍》
《スレイベンの検査官》*4	《永遠の見守り》*2	《大天使アヴァシン》*3
《白蘭の騎士》*3	《次元の激高》*2	《隔離の場》
《サリアの副官》*4		《罪人への急襲》*2
《ハンウィアーの民兵隊長》*4	Lands: 20	
	《平地》*17	
	《ウェストヴェイルの修道院》*3	

本戦デッキ

ともあれデッキも確定し、あとは台北に行くばかりです。

2016年6月24日（金） 出国の朝

5時15分、目が覚める。準備は（当然）前夜に済ませてあるしこの時間なら余裕だろうとPCをつけて読み書きしていたら30分が経過してしまい、慌てて服を着て5時50分にカラコロを引いて家を出る。通り道にあるタクシー会社であるいはと思ったが、外にいる運転手のおっさんに聞いたら「6時から点呼があって、乗せられるのはそれからだね」と言われたのでこのまま10分待つくらいならと、そのまま歩いて駅へ。まあ、まだプラン「松屋めし」をプラン「コンビニおにぎり」に変えるだけだ。

6時15分、おにぎりを買って総武線ホームへ。よし間に合った。

6時22分、エアポート成田に乗車。

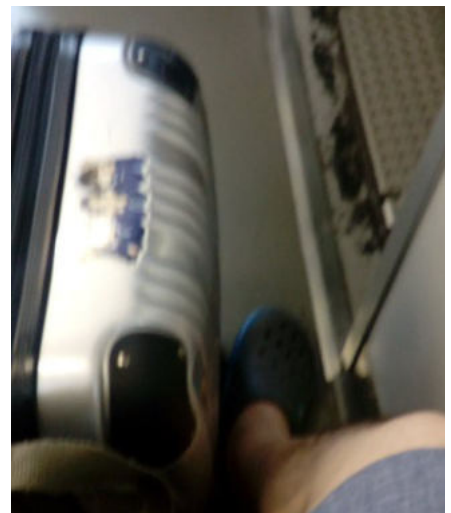
ゆるふわスタイル

今回の自分のコンセプトは「台湾なんだし気負わず」というのもあったので、これが今回のスタイル。

前回のメルボルンでいつもの旅行鞆が壊れたので、国内GPでも使っていたベコベコの旅行鞆。おまけに今回は「期間中ずっと雨」という天気予報だったので、濡れた靴と靴下を履きたくないなあ、ということで**サンダル**

履きで通すことにした。さらに「成田への往復中にだけ靴を履く必要も別にないな」と気がついたので、すでに家を出る時からずっとサンダル。はっきり言って、国内GPの移動のときよりゆるい。

まあ、パスポートと財布とクレカとデッキさえあれば、あとはどうにでもなりますが。



成田空港で手続き

出掛けに「チャイナエアラインのストが決行されたため、本日の台北行きは12時以降の便は全便欠航。午前中に出発の便に関しては7時10分の羽田発は運行が決定。その他は交渉中」というニュースが入る。うわぁ、該当者がいれば直撃だ…と思ったものの、どうやらツイッターなどの情報を追う限り、これの被害を受けたMTG関係者の情報は入ってこなかった。まあ自分も事前に調べたけどチャイナエアラインって別に安くもないんで、ANAとかを蹴ってチャイナエアを選ぶ理由って何もなかったんですね。

7時半に空港第二ビル駅に到着。第三ターミナルまでは660メートル。もちろんシャトルバスに乗り乗る。なぜかこの頃から1時間ほどツイッターでアクセスできなくなるのだが（伏線）、何ごともなく搭乗手続きとセキュリティとイミグレを通過して、8時20分に搭乗ゲートの前に立つ。今回の手荷物は結局8.1kgあったが「パソコン入ってます」でにっこり通してくれたバニラエア愛してます。

あと前のメルボルン本で「ターミナル3には食べ物屋や飯を買える所はない」と言ったな。あれは嘘だ。正確には「出国ゲートをくぐったら」だ。セキュリティに入る前であれば、各種の飯屋やローソンがあるので、そこで食べるものは買っておきましょう。

出国

ゲート前で朝の薬を飲む。

リュックサックとカラコロに加えて、たすきがけにしていたサイドバッグが「手荷物は2個まで」と注意されたので、サイドバッグをリュック中に無理矢理入れてゲート通過。8時40分、バスに乗り搭乗。あとは飛行機が離陸して落ちなければそれでよい。4時間後にはもう台北だ。では通信を切る。



機内での3時間余

何ごともなく離陸したJW101は9時20分に水平飛行に移ったので、財布の中身を台湾通貨に入れ替えて、日本円をしまう。機内ではうとうとしたり、数独をやったり。

11時10分。間もなく入国カードを書くので、機内販売のバニラエアのボールペンを買う(100円)。前とデザインが違うな。

11時40分。配られた入国カードに記入を終える。

さらにスマホのタイムゾーンを台北に設定する。1時間時計が戻ります(ここからは現地時間で記します)。

11時13分、何ごともなく台北空港に着陸しました。

圓山駅前で昼飯にして、会場到着は13時過ぎ頃かなあ。



入国

台北に到着してまず思ったのは「天気いいじゃん!」ということ。気温は34度らしい。

最高気温は29度で毎日雨という天気予報は、いったいどこの台北の話だったのか。

ま、かき氷を楽しみにしていたので、肌寒いジト雨よりずっといいけどね。



カラコロを引いて足早に外貨両替とかもスルーしイミグレへ。って**500人くらい**いないですか？コレ。まあ自分の番を待つしかない話なのですが。

まだSIMは購入できていないものの、空港 Free Wifiの存在を思い出したので、並びながら接続をして暇を潰します。

ようやくあと数名で自分、という所まで来て気がついたが、この係員遅いよ。1人に何分（文字通りの意味で）かけてんの。別の窓口にすれば良かったなあ。後ろのおばちゃん「このひと遅いよねー」と意気投合。

イミグレでは顔写真と両手人差し指2指の指紋を取られる。拒否できるものでもないのに素直に応じたが「あれ？前回こんなのあったっけ？聞いてないよ」な感じ。

ネットで読んだ感じでは、2014年夏から全員を取ることにした模様

ともあれイミグレを**70分**かけて通過。畜生。

通信を確保し高速バスに乗る

まずは通信を確保しなければならない…ということで空港のSIM販売所を探すと、ほどなく中華電信のショップを発見した。5日間データ使い放題で300元。文句なく安い。ていうか正直、台北は無料Wifiも発達している国だけど、この値段ならケチって無理に無料Wifiにすることない値段。SIMフリースマホ万歳。あいぽん捨てて良かった。購入後にレジ前で通信を確認し、12:40に中華電信を出る。

次は高速バス。国光客運の1819カウンターで紙に「圓山 Yuanshan」と書いて見せると、係員が「庫倫街」と書いてきたので、うなずいて購入。125元を払う。渡された切符には「台北A站」と書いてあったので、市内で途中下車しても料金は変わらないようだ。別にいいけど。そして屋外に出ると国光客運1819のバス待ちは50mくらいの列。並ぶしかない。暑い。並んでいる間に係員がぺたっと荷物にタグを貼り半券を手渡す。





13時5分、無事バスに乗車。空港のコンビニで買って
おいた「健酪」ヨーグルトドリンクを飲み始める。

圓山で降りるのが自分の他にいないかどうかは不明だが、
とりあえず自力でボタンを押す用意はしておく必要は
ある…あれか。「下車釦」と書いてある。

また前のほうに座ったので次の駐車場の電光掲示板は
無理せずとも読める。耳を傾けているとアナウンスも

中国語訛りが強いものの英語駅名交じりである
ことも分かったし、これなら大丈夫だろう。

車中で、台湾ドルが3.1円になっているのを
知ったり、たっちーがGPの金曜日をスルーして
九份に行っているのを読んだりしているうち、
目的地の庫倫街口站到いたのでボタンを押し
13時40分下車（降りたの自分1人だった）。
…で、会場はどっちだ？



昼は牛肉飯（カレー味）

ぐーぐるまっぷを起動して現在地と方向を確かめ、
東へ向かうと、ほどなく MRT が見えてきた。
よし方向は合ってる。では昼飯にしよう。

（ほどなく分かるがここは圓山駅前通りだった）

適当に入った現地の飯屋で、メニューを見てから
牛肉飯をオーダー。





フリードリンク（乳系ドリンク）つきで
120 元。カレーソースの味付けうまし。
鼻屑にするほどではないが悪くない。

14 時、昼食を終えて会場へ。駅を超え
るとほどなく見覚えのある花博会場。
「2 年ぶりだね」
「…来たよ」

脳内でいつものキリシマとハルナの会話。

（2 年くらいで同じ所に行くとはいえ、いつまでこのアルペジオのネタをやるのか俺）

VIP エントリーとエタマスドラフト

まずは受付で VIP エントリーを行い「VIP リュックサック」を貰う。

中にはマグカップとライフメモ（ペンはなかった）。プレイマットは明日貰えるらしい。

さらに特製 ID カードと石鍛冶のプロモ、VIP サイン優待券 3 枚を貰う。

その後、14 時 20 分。さっそくエタマスドラフトにエントリーする。1500 元。

いつ卓が立つかな…とも思ったが、この時はタイミングも良く、俗くんを誘って 8 人目に入れることで、さほど待たないで立った。

5 千円払って参加するエタマスドラフトでは、まずは勝負以前に「いいレア」が引けるかどうかの勝負であり、実際にジャッジも「Force of Will? Mana Crypt?」とか言いながらウケを狙ってきたのだが、自分についていえばマネドラ的には**惨敗**の結果でした。

1-1 は《緑の太陽の頂点》。これは取って緑で行くことに。

2-1 は《大渦の放浪者》。さすがに今日のデッキには入らないなと思って流す。しかし、カスレアだと思ったら後で値段表を見て「意外に高かったんだな…」と気がつきます。

まあ神話レアだしマネドラ的には失敗。価格表を覚えるのも大事なエタマスドラフト。
2-2は俗くんが《ネクロポーテンス》を流してきたけど、デッキには入らないので流す。
3-1《ザンティッドの大群》。色は合ってるけどわざわざ取るほどのレアではないなと思ったので流す。

結局、取ったレアは緑頂点のみ。勝負はどうでもいいから他の3枚も取れば参加費の半分くらいは回収できた計算だが…。あと《陰謀団式療法》も回収しておくのだったか…。

デッキはこう。緑サブ青黒。ほぼ均等。緑黒エルフを狙うも当然かちあっていたようで、青を拾って切り替えた感じで。まあ強くない。青黒の本殿2枚はいい感じ。

Creatures: 15	Spell: 8	Lands: 17
《ラノワールのエルフ》	《緑の太陽の頂点》	《陰鬱な僻地》
《ワイアウッドの共生虫》	《自然の要求》	《茨森の滝》
《病み土のドルイド》	《眼腐りの終焉》*2	《島》*4
《ソーンウィールドの射手》	《嘘か真か》	《沼》*5
《大クラゲ》	《夜陰の本殿》	《森》*6
《放蕩魔術師》	《樹根》	
《護民官の道探し》	《風見の本殿》	
《三角エイの捕食者》		
《グレイブディガー》		
《豪腕》		
《皇帝クロコダイル》		
《リス・アラナの狩りの達人》		
《流浪のドレイク》		
《うろつくセンザンコウ》		
《ワームの咆哮》		

構築デッキ

Round1 Maneさん 白青 ○○

こちらが《三角エイの捕食者》を出した後で相手が特に飛行対策もなく出した青本殿を、

空から殴って割ったり（まだ出さないほうがよかったのでは）、そのあとでこちらが青黒本殿2枚を張ったりしてブン勝ち。

Round2 Uenさん 青赤緑 ××

特にいいところもなく回らず負け。

40 チケをゲットして終了。

ま、元取りという意味では残念な結果であった。

しかし立つようなら1日1回くらいエタマス遊びたいかな？お金は使うためにある。

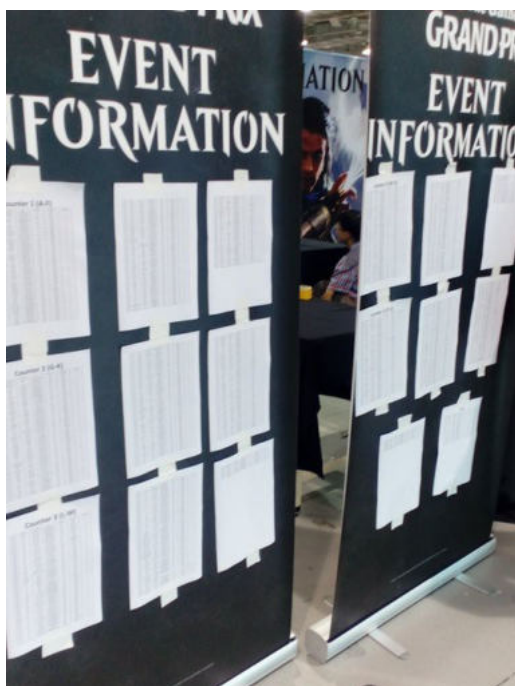
会場をぶらぶら

エタマスドラフトを終えると16時を回った。もう普通のドラフトのエントリーは終了したし、あとは金曜にやるのはFoiled Againドラフトだよねー、ということでエントリーする。でもこれも8名フライト式なので何時に立つか分からない。よってお呼びがかかるまで会場をぶらぶらするしかない。

今回の自分はサインの用意はほぼしていなかったのだが、abigara くにアーリンの両面カード（英語版）へのサインの予定があったので、アーティストブースへ。Winona Nelson には20人くらい並んでいたものの、この1枚のためにVIPチケットをかざしてエントリー。アーリン1枚だけをひらひらさせ「ソーリーこれ1枚だけだから勘弁ね」と並んでいる人たちに見せつつ、手早く字だけのサインを貰う。世の中ゼニや。

あとはGP北京2015のプレイマットが、たった400元だったので買ってしまおう。

またニヤシグルのプレイマットが3000元だったが、1万円か。欲しい人いないかな。



またプライズウォールが発表されていた。今度は何ポイント取れるだろうか。

明日の本戦の名簿が掲示されていた。参加者は700人弱。自分がVIPゾーン650番にエントリーされていることとBYE1を確認する。

受付に本戦デッキリストとメディア同意書を渡す。

飲料水

会場内には無料ウォーターサーバーが設置されていた。これは海外のGPでは割と普通なのだが、サーバーに洗浄が必要なコップではなく使い捨ての紙コップが設置されていたのは割と珍しかったです。

海外とかのアレ、サーバーの所にしばしば大量の飲みかけコップが放置されて見苦く感じるものがしばしばだったんだよね…。

それはそうと、この紙コップを撮影したZoe.くんなどはこれ自体を面白がったようだが、

自分は**昔の新幹線の飲料水の紙コップ**を思い出しました。因みに同じ反応を示したのはアラジンさんのみという、とても分かりやすいジェネレーションギャップの話。



Photo by Keiichi Kawazoe

Foiled Again ドラフト

小一時間ほどしてようやく 8 人揃ったアナウンスがあったので、17 時過ぎに参加。
見慣れた SOI のパックを剥いてから「あ、中文版なんだった」と気が付く。

1-1 は《苦汁の破棄》。悪くない。しかし白黒スタートするも、白があまり流れてこない
ので赤黒に軌道変更。そして最終的には白も抜け初手が無駄ヅモ。ドラフトではよくある
話（弱い）。色が合っているから 2-1 で《戦墓の巨人》も取るが、結局は、ゾンビでなく
吸血鬼に流れたのでこれも抜けた。特筆するほどの取りレアなし。
結果としては、弱くもなく強くもない赤黒ができた。

Creatures: 15	Spell: 8	Lands: 17
《療養所の骸骨》	《死の重み》	《沼》*9
《甘やかす貴種》	《血統の呼び出し》	《山》*8
《スレイベンのガーゴイル》	《無差別な怒り》	
《ケッシングの鍛冶場主》	《靈魂破》	
《貪欲な求血者》	《内面の葛藤》*2	
《トロスタッドの死騎手》	《絞首》*2	
《グール呼びの共犯》		
《闇告げカラス》*2		
《吸血貴族》		
《既決殺人犯》		
《灰口の雄馬》		
《流域の導師》		
《呪われた魔女》		
《マウアー地所の双子》		

構築デッキ

Round1 Tosh さん 白青 青緑 ○××

G1 ブロッカーを残さず常にフルパンし続けて、こちらの返して単純にダメージ勝ち。

僕から見てもあまりマジックに慣れていない方のように見える。しかし時にそんな相手
にもあっさり負けるのがマジックだ。

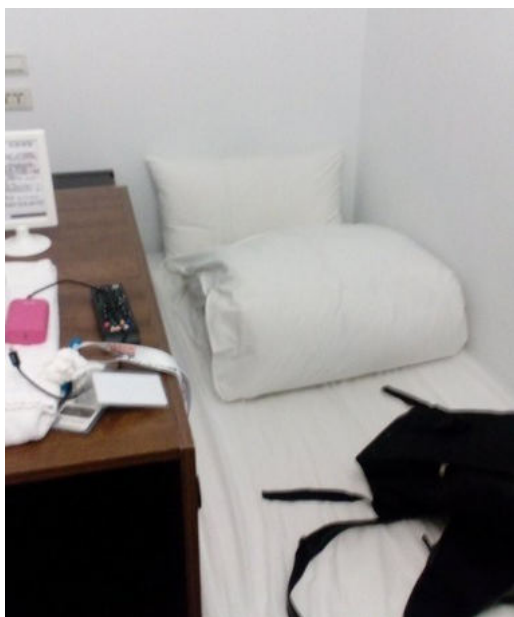
G2 場が膠着のち、相手が昂揚して毎ターン《魂を呼びこむもの》がでかくなり続け、こちらがプレイミスもやっての負け。あんなの、いくらでかくなろうが2枚入っている《内面の葛藤》でいちころだぜと思ったら10数ターン引かなかった（笑）。こちらが1/1 吸血鬼トークン数体を並べて全部に+4/+4して全部にブロックされて殺し損ねたのは自分のあほなプレイミスだとしても、何でトークンについていた絆魂を忘れていたのか俺（30点くらいは軽く稼いだ筈なので次のターンに殺されることもなかった）。

G3 土地が3枚で止まって負けー。

結果《レンの地の克服者》のプロモを貰って終了。これでGP金曜日は終了だ。
18時半を回ったので、あとは帰って夜市だな。

ホテルにチェックイン

まだ勤務中の伊東さんを誘うのは無理としても、俗くんやGENさんも同じホテルだったので、じゃ頃合だからホテルにタクシーで行って夕食にしない？と持ちかけるも、2人はまだ他のプレイヤーを待っている風だったので、いい加減に荷物を置いて身軽になりたい自分は、一足さきに離脱することにする。20時前に会場を出る。



カラコロもあるので会場前でタクシーが拾えるようなら拾うのもやぶさかではなかったが、会場をまっすぐ南下していくルートはMRTの高架沿いに公園の遊歩道を歩いていく感じで、車が通らない。とはいえ、すでに日が暮れて知らない道を歩いているものの、常にグーグルマップで位置を確認できるしMRT沿いで迷いようもなく、何も問題なくホテルのあるブロックに到着。こりゃ明日からも徒歩で会場入りでいいな。

しかしブロックの近くでいささか目的のホテルを発見できず、少し迷った後に尋ねて到達。汗だくの状態フロントに入り、キンキンの冷房に感謝しつつ20時過ぎにチェックイン。

ベッドでほぼ一杯になる寝るだけの部屋だが文句はない。何よりも枕と布団がふかふかで乾燥して気持ちが良いし、これならダニも居るまい。これは安宿ポイントが高いですよ！

寧夏路夜市へ

荷物を置いてシャワー設備などを確認したのち（シャンプーは常備で購入不要だった）、では飯にするかと20時20分、ホテルを出る。

この頃には皆が夕食を林森北路の飯屋でというプランが流れてきたものの、今夜はひとつ寧夏路夜市を攻めようかと考えていたため、皆とは合流せずひとり寧夏路夜市を目指して夜道をホテルを西へ。そして当然のように**迷った**（笑）。

寧夏路夜市というからには、寧夏路に到達すれば夜市の明かりも見えるのだろうと考えて



地図を現在地と見比べながらまっすぐ西に行き、そろそろ寧夏路の筈なのだが…と思うも、それらしいものがまったく発見できず、行ったりきたり20分ほど。頼みの綱のグーグル先生も、時折なぜか突然1ブロックくらい現在地がとび、かえって迷走に拍車が。まだ空いている店に入って筆談で聞いたりして、やっと正解にたどりつく。

基本的には、寧夏路夜市というからには寧夏路にたどりつけばどこでもやっているのだろうというのが誤りだった。寧夏路は南北に1kmくらいある通りであり、そして寧夏路夜市というのは南端の南京西路からの200mほどで行われているもので

あり、そして自分のホテルのある通りの民権西路というのは寧夏路夜市の北端だ（笑）。

つまり寧夏路沿いに 500m は南下しないと夜市はなかったのだ。

このことに気がついてまっすぐ通りを南下して、やがてほどなく寧夏路夜市に到着した。
まだ 21 時前。空腹だ。さ、食って遊ぼう。

臭豆腐にチャレンジ

今回の台北では、なるべくこれまでは攻めてない所を攻めたかったので、ひとつ今までは夜市の屋台の前で臭いを嗅いだけで敬遠していた臭豆腐にチャレンジすることを日本に居るときからプランに考えていたのである。そして**今こそがその時**であろう。いまのこの腹減り具合ならば、多少おいしくなくても行ける！



ということで、そこそこに行列のある臭豆腐の屋台を発見して意を決して注文。45 元。

屋台の待ちに並び、臭いを気にしないようにしながらおばちゃんが調理している所を眺める。

よく分からないが、何やら衣をつけた豆腐が油の中でぐつぐつと煮られている所を見ているうちに「あれ、**なんかおいしそう**だぞ？」という思いが去来する。

そして箱詰めされた自分のぶんを受け取り、どこかに座るために別の屋台でロース炒飯を注文したうえで、カウンターに座って臭豆腐を爪楊枝で刺して食べる。

普通にうまいじゃないか。臭いも想像よりもずっとマイルドだし、味はピリ辛の揚げ豆腐。好きな味。





これは本当に、僕がこれまで避けてきた臭豆腐と同じものなのだろうかと思えたくらいだ。

残った問題は、いま頼んだロース炒飯（70 元）が結構でかかったので、これを無事に完食できるのだろうかということだが…なんとか完食。ふう。

寧夏路夜市を一回り

21 時 20 分、食事終了。次はかき氷だ！と思って南下しながら探すも、どうも寧夏路夜市にはフワフワのかき氷は見当たらず。



その過程で、アイスバーが丸ごと入っているレモネード（60 元）を頼んだ後で「4 色氷」50 元を頼んだりしたのだが、あまりうまそうではない。全体に茶色なのがなー（この茶色は黒蜜）。あとはマンゴーや煮豆が敷いてあって「4 色」。ただ底のほうにそうめん？が敷いてあったのは、もう満腹だし「うーん…」な気分が残す。まあ 50 元だし。

あとはTシャツやタイガーバームを探すも、Tシャツがいまひとつ高かったり（200 元）タイガーバームが見当たらなかつたりしたため、特に買い物もせずに 22 時過ぎに寧夏路夜市を後にする。ま、臭豆腐チャレンジに大成功したので**総合的に勝利**だ。

ホテルに戻る

帰りに足マッサージの店でもあれば利用したのだが…とも思うも、民権西路のあたりにはいまひとつその手の店は見当たらない。さらに2ブロックほども東に行った林森北路には多分その手の店は存分にあるが、疲れた足でさらに歩く気も起こらない。このため結局、コンビニで飲み物を買って22時半、ホテルに素直に戻る。キンキンの冷房が心地よい。あとはシャワーを浴びれば、だいたい終了。

空きができていたのでシャワーを浴びて、部屋でごろる。幸せ。

あとこのカプセルホテルは「室内での飲食禁止」なのが残念ではあるが…まあ実際には、さすがに守れないのでペットボトル飲料だけは持ち込む。ゴミは外で処分する形で。

ふと部屋のTVをつけたら、映画とかアニメとかのCSチャンネルが観られた（日本語なし）のは当然としても、エロチャンネルを合わせると「有料ですがよろしいですか？」の類を要求されずに**そのまま観られた**のにはいささか驚いた。

正確には「ペアレンタル・ロック」の暗証番号の入力を求められたのだが「0000」と入れたらそのまま通ってしまった（笑）。

しかし後でクレカの明細を観たらチェックアウト時に「番組代」が乗せられていることは…おそらく日本のビジネスホテルでもあるまいし、多分あるまい。エロチャンネルで寂しい夜を紛らわせつつ、日付が変わる頃に就寝。



中国語講座「なあ、いいだろ？」

実のところ本当にエロ動画が観ただけなら、持参したノートPCを起動しXVideoでお好みのものを検索したほうが早いのだが、まあこのへんは縁起物（笑）ということで。

2016年6月25日（土） GP 本戦の朝

5時半に目が覚める。戦いは5時間後でまだ全然寝ていてもいいのだが、日本なら6時半だし朝飯も食べたいし睡眠も足りているようだから起きよう。ベッドを出て（正確にはベッドの上で身を起こし）パンツをはいてトイレに行き、ロビーのウォーターサーバーの水を飲んでから部屋に戻る。

自室で制御できない冷房が寒すぎるので、上に1枚はおってからノートPC起動。昨日のマジック日記（ドラフト2回だけだが）をDiaryNoteに書き始める。

少しお腹を下していたので1本書いてからトイレへ。しかしトイレに入ったら、2つしかない個室が2つとも塞がっていて苦悶。そして待った個室トイレからは俗くんが出てきた。やはり腹を壊している模様。まあ自分は明らかに食べ過ぎ飲み過ぎだけど。

このホテルのトイレはシャワートイレあり。正直なところ用便後の紙を捨てられない台北では、うんこを残さず拭き取るためうんこのついた紙を何枚も何枚もゴミ箱に入れるのはかなり抵抗がある（特に下痢気味の場合）ので、これは捨てる紙が少なくて有り難いや。

いまから下水を直すのは難しいとは思うが、シャワートイレは普及して欲しいな台北。

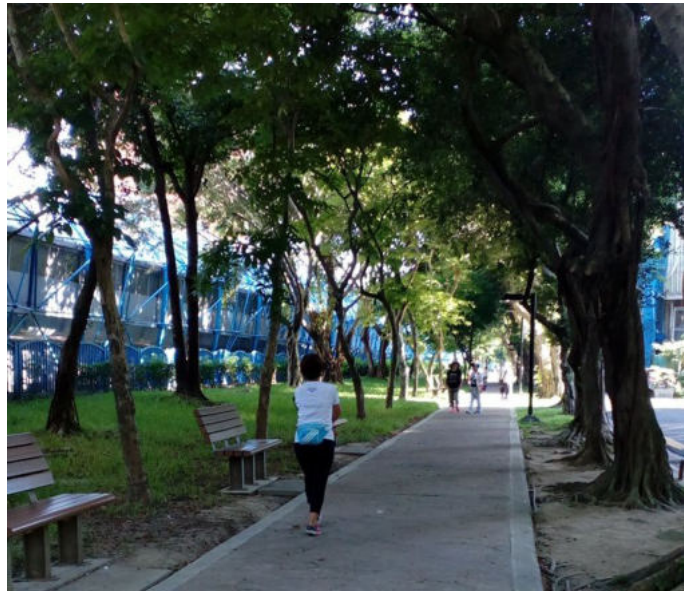
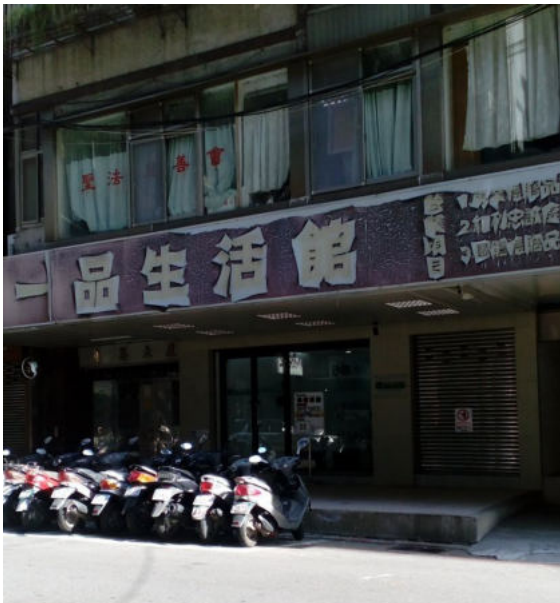
トイレを済ませて戻る途中、隣の空いていた障害者用のトイレを使う手もあったかと気がつく。もちろん障害者が待っていればそちらを優先する話だが。

昨日のマジック日記をDiaryNoteに書き終わると7時半。よし部屋を軽く片付けてからホテルを出て朝食にして会場入りしよう。まだ本戦は余裕のある時間だけど、この部屋にこもっている理由はない。

会場への遊歩道

8時前にホテルを出る。しかし改めて、このホテルを示す看板もなかったんだよね。昨夜迷ったわけだ。

そして会場までつらつら遊歩道を歩く。そしてすでに暑い。青空ぎらぎら。毎日降水確率100%の天気予報とはなんのことだったのか（夕方のスコールのことです）。



このおさんぽロードを 500m くらい歩けば会場だ。このホテルの場所はよい。次回以降も GP 会場が花博公園なら、優先候補にして良いなここは。

10 分ほど歩くとそろそろ会場だ。この沿道に点心の屋台でもあれば完璧だったのだが、そこまで望むべくはないようだ。ま、朝食は圓山駅前でどうにでもなろう。

朝食は洋軽食

圓山駅前の朝食セットを出している店に入る。漢字メニューを解読しながら E セット 70 元を指差し注文。おばちゃんが日本語でゆっくりと「の み も の は ?」と聞いてきたのでゆっくり「つ め た い こ う ち ゃ で」と返す。
アウェイ感のない街、台北。





味は普通。何にせよ 220 円なら安い。

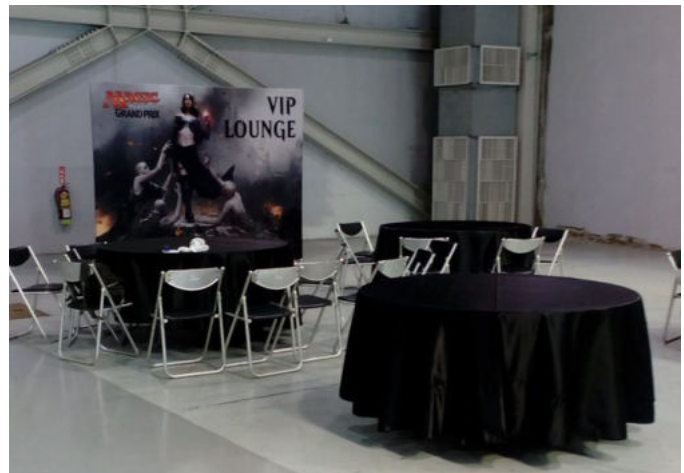
おいしく頂いて店を出る。駅前でサンドイッチを売っている店も多数あったので、明日はそれを試してみようかな。8 時 40 分に会場に入る。

どうやら 2 年前と同様、目の前で昼市を開くようだ。昼飯はここでいいかな。

今日の僕の定位置。

誰もいない VIP エリアで開始を待つ。

またぶらぶら歩いてサイコロセット 300 元を買い、机の上のライフメモを取る。



昨日からすでに 5 本は開けている「健酪」のヨーグルトドリンクで、朝の薬を飲む。

さて、あと 1 時間くらいどうしようかな…。

バイヤーブースにカードを売るのも今回はやめることにした。いきなりの円高だから多分 ATM で下ろしたほうがいいし、何よりたっちーからこれから 21000 円分の元を回収する。この台湾の物価の安さの流れでは、それすら使い切れないかもしれない。

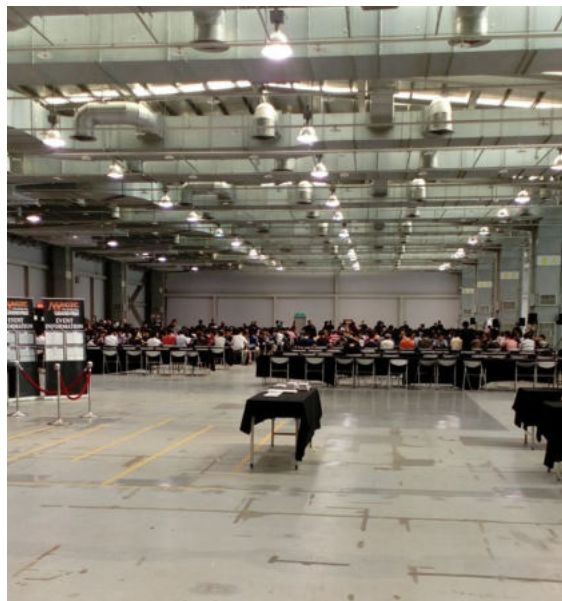
本戦開始

VIP 席から遠めに眺める本戦では、メディア同意書とデッキリスト回収が行われており、リッカルドがヘッドジャッジアナウンス中。こんな所もアウェイ感なし。

どうやら参加者は793人で、そのうち日本人は267人らしい。1/3を超えてる（笑）。

やがて本戦は開始したが、1BYEの自分は引き続き待つのみ。

VIPカウンターに行って、本戦プレイマットを受け取る。そして今回のGP台北は「VIP専用プレイマット」というものは存在せず、VIPはこの本戦プレイマットを2枚貰えるだけだと改めて確認して、いささかがっかり。



GPメルボルンであれだけプレイマットを奮発してくれたChainLinksさん主催だから期待していたのに…あるいはメルボルンでは「やり過ぎた」からの反省かもしれないけど。まあ《罪人への急襲》のイラストはかなり好きなので、これはこれでいいんですけどね。

VIP 専用対戦ゾーン

BYEの1回戦が終わり、いよいよ自分も本戦の2回戦での対戦を開始します。

まずはVIPエリアの横に張られたVIPペアリングを見て（VIPは24名だった）、自分の名前を発見し、1000から始まる自分の対戦テーブル番号へと移動します。

今回のGP台北では「VIP専用席」というゾーンが設けられており、これには座席番号1000番からが割り振られており、VIPプレイヤーはこのゾーン内に必ず自分のテーブルが配置されるようになっていたのです。

ちなみに「どうやってこのテーブル番号をつけているんだ？まさか手作業か？」とも思ったのでGPジャッジも勤めた瀬野さんに聞いたところ、どうやらその機能が最近WLTR（大型大会用の多人数入力可能なWER）に実装されたもののこれまでは使われていなかったそうでした。



そしてそのVIP専用の対戦ゾーンはVIPペアリングの目の前。

ペアリングを見て10秒も歩けば、自分の対戦席に座れます。

むちゃくちゃ楽しかった。

VIP代3千円くらいはこれでいい。

VIPエリアとVIPペアリングとVIP専用対戦ゾーンがこれくらいすぐ近くにありますが。

ほどなく、これが**今回のVIP特典の一番のアドだった**ことが確信できました。

ただVIPが対戦相手になる普通の本戦参加プレイヤーにとってみると、これは「テーブル1000番っていったいどこだ？」な話にもなったようで、しばしばプレイヤーが少し遅れ気味に現れることも珍しくなかったようでした（その際の遅刻はゆるめ判定でした）。

たちーからGPメルボルンのプレイマット3枚分の貸し掛け金21000円相当の台湾元を受け取る。一週間前からの円高進行で当日の元は3.1円だったが「両替したときは元が3.5円だったので（涙）」ということで6千元を受け取る。仕方ないよね。

軍資金ができたのでバイヤーブースで《意志の力》プレイマットなど買う。800元。

本戦対戦開始

そしていよいよBYE明けの自分も本戦の対戦を開始。今日のメインイベントです。

Round2 Edwinさん 青赤緑エルドラージ ××

G1 高速が命のこのデッキで土地ばかり引いて負け。相手の《世界を壊すもの》の着地までライフを半分しか削れないわ、あいつが到達持ってるのを忘れて玉砕するわ。

G2 手札平地と《ウェストヴェイルの修道院》でキープするも、生物2体を順調に展開

した後で引いた3枚目の土地が《ウェストヴェイルの修道院》で手札《白蘭の騎士》が腐る。そこで土地と生物が止まって次に引いたのも白蘭（笑）。あと《停滞の罌》。おまけにその手札を相手に覗かれて Oh...な反応に（笑）。まあ負けた。

感想戦で《ウェストヴェイルの修道院》を「なんでそれ**弱いのに**入れたですか？」と言われてしまう。うんまあ、ぼくも白赤やバントならともかく、白単で平地17枚これ3枚なら色事故はそれほどあるまいと考えたためです。入れたのはもちろん、膠着した際にこれで決める可能性も考慮してのことではありますが、とはいえ結局はそのような局面はなかったので、まあ入れて失敗だったと言えるでしょうか。

ともあれ、さっそく土がつきました。

本戦の合間に青果市

光の速さで2回戦を負けて会場を出ると青果市が開いていた。すでに11時なので、ここで早め昼食がてらに色々つまむことにする。

搾りたての冷やしマンゴージュース（50元）を買って飲み飲みしながらぶらぶらと市場を歩き、おばちゃんがよく分からないが小麦粉を焼いたものを売っていたので1枚購入。30元。

うんおいしい。野菜が入っていてヘルシー。

1食分には足りないが次のラウンドまでの空腹を紛らわせるには十分だ。

やはり食べ物が安くて旨い**台湾は最高**ですね。

飛行機代とホテル代を合わせて3-4万円くらいだしGP来ない理由はないや、やっぱり。大洗に行っている友人のツイートが流れてくる。大洗と台北。参加している理由には関係なく、だいたい旨いものを食っている話しかつぶやかない。



Round3 Hsuさん 白赤人間 x○○

ほぼミラー。

G1 土地が3枚で止まったり（さすがに中盤以降は辛い）、タフネスを間違えて突撃死するなど、酷いミスもして負け。

G2 打点はこちらが弱めの殴り合いだったが、相手に一気に9点殴られたところからのサイドインした《ランタンの斥侯》を出して殴って9点回復して、そのまま殴り勝ち。

G3 引き続きこちらの打点が弱めで、相手が14点から一気に11点削り、こちら3点の相手12点。しかしここで《ランタンの斥侯》が着地して、空から殴って6点に回復。相手がフルパンで殴ってきたのを相打ちを交えつつ通してこちらライフ2点の瀕死で、相手は9点。しかしこちらはトップの《探検隊の特使》（こいつも同盟者だ）で、空と《ランタンの斥侯》ので殴って6点回復し、こちら8点相手3点。相手がフルパンするのを空の1体以外でチャンプしてこちらライフ2点。そして除去のなかった相手は投了。

ランタン勝ち。これをサイドに入れたのは独自判断だったが、当たったな。



対戦が終わったので、さっそく会場を出て青果市に行き、今度は揚げた大根餅に手を出す。40元。

もぐもぐうんおいしいもぐもぐ。

澱粉と蛋白質を油で揚げたものならたいい旨い。

次のラウンドが終わったら、今度は何を食べるかな。

Round4 Wooさん 白黒 x○x

G1 ギデオンを《停滞の罟》で除去したところまでは良かったが、展開して半分くらいライフを削ったところで《衰滅》を打たれて全部を流され、その後で向こうがソリン、カリタスと展開してきたので、さすがに投了。

G2 ブンして勝ち。《衰滅》を引かれなかったからな！

G3 手札が平地 1 枚。しかし《探検隊の特使》と《サリアの副官》が 2 枚。後手。よしこれなら 2 回までのドローで 1 枚土地を引けばブン回る…と思って**賭けキープ**したら賭けに負け。その後の数ターンは土地を引かずに《探検隊の特使》で 2 回殴れただけで相手が順調にどしどし展開してきて終了。まあ、仕方ないね。



負けたのでさっそく会場を出て青果市へ。もはや対戦よりも対戦を終え何を食べるかを楽しみにしつつあるような感がないでもない（笑）。

昼飯はこの位にしといたるかのソーセージ 40 円で締める。しかしなぜ台湾では、ソーセージに甘いものを塗るのだろうか。まあ、いいんだけど。

VIP エリアでトモハレさんと雑談。「今まで一番区切られてないVIPエリアですね」と名言を残して去る。

Round5 Jang さん 黒赤吸血鬼 ○○

G1 順調にクリーチャーを展開できて、相手の除去が間に合わずにこちらの除去はよく引けて勝ち。

G2 相手が比較的高速で展開したうえで、相手が 4 点火力も生物でなくこちらの本体に叩き込んで残り 7 点にして次で殺すマンになった所で、やはりサイドインしたこちらの《ランタンの斥侯》が着地し、6 点パンチが炸裂してこちらが 13 点相手 12 点になる。相手はいささか呆然としつつも殴って 9 点を削って（うん、弱くないよ）こちら 4 点。このタイミングで相手に第 2 メインに《衰滅》を打たれたらこちらの負けの所だったがそれもなくなり 12 点を殴り切って勝ち。殴り合いのライフレースには強いランタン。サイドプランがきっちり決まって勝てると、気持ちいいな。

Round6 Changさん 白黒緑 ×○○

G1 《衰滅》を打たれて負け。

G2 《衰滅》を打たれなかったので勝ち。

G3 《衰滅》を打たれなかったので勝ち。

お互いほぼノーガードで殴りあっただけだったので、本当にこんな感じでした。

これで4-2。初日通過ライン6-3の目は意外にもまだあるのか。あと3回。

Round7 マルヤマさん 白人間 ××

相手は本日初の日本人。1/3超が日本人のこの大会ではむしろ珍しいのではないかな。

デッキはほぼミラー。相手が「次はこれを出してくるかな」とほぼ分かる展開。

G1 こちら先手のワンマリ。相手に順調に展開されて秒速で負け。こちら1発も殴られませんでした…（この時点で駄目）。

G2 順調に展開されて負け。こちらの伸びが悪かったので手札の《次元の激高》を眺めつつ「あと土地1枚！1枚あればこれで全部流して巻き返せるのに！」と思ったのだがとうとう5枚目の土地を引けずに負け。これもマジック。

レベルの高いコスプレ

そろそろまた小腹がすいてきたので、ラウンドの合間に青果市に行き、今度は併設フードコートを覗いてチーズサモサを購入。40元。うん、うまい。明日はこの店で昼食をがつつりとナンカレーに手を出すのも、ありかもしれない。

やはり食べ物が安くてうまい台北は幸せすぎる。

スタンであろうとも来て本当に良かった。

そしてVIPエリアでツイッターを読んでいたら「レベルの高い



コスプレ」が登場しているという情報を得る。

どれどれと思いつつ会場の反対側のバイヤーブースに行くと、なるほど。

さっそく俺もカメコにチェンジしてカメコに混じり撮影をする。これは眼福。



スタイルもいいけど、すごく高いヒールを履いてるなー。まあ何にせよ「レベルの高いコスプレ=エロいコスプレ」ではあるわけなのですが（笑）。

しかし台北のコスプレイヤーは「スマホなんかでアタシを撮ってんじゃねーよー眼持って来いよ」とか言わないからいいな！（むかし何か嫌なことでもあったのか）

VIPのお値打ち

バイヤーブースを覗いたら、VIP特典としてくれたアヴァシンのマグカップが1000元の値札がついて並んでいた。正直、この値段で誰が買うんだな気がしないでもないのだが（笑）、ともあれ3千円のお値打ちはあると見て良いということか。

VIP専用リュックサックも、まあ正直いらないうちやらないんだけど、3千円くらいの

価値は認めてもよからう。

さらにVIPコーナーに「VIP ドラフトバウチャーあり」の掲示が出たので、さっそくVIPカウンターに行って貰う。明日にでもやろう。これも500円の値打ちのSOI タダドラ。サイン優先券3枚は、結局余った2枚を会場で「ください」と言った小町くんにあげたが、サイン会は1番人気の人は常時10人くらいは並んでいる感じだから、この券だって1枚千円くらいの価値はあると考えられなくもない。

今回のGP台北は「VIP 専用プレイマットなし」という自分にとってかなり残念な話ではあったものの、それでも《罪人への急襲》追加マットは2500円くらいの価値はあろう。そしてVIP ラウンジからVIP 専用エリアへの快適さは3千円くらいは払っても良い。もちろんスリープインには600円の値打ちはある。

こう考えると、今回のVIPの料金（一般との差額3800円）はそこそこ元取れかなー。

でもやっぱり**VIP 専用プレイマット**は欲しいですよChainLinksさん。

本戦終了

Round8 ワタナベさん 白青緑 ○○

G1 回って勝ち。

G2 回って勝ち

を、これで5-3か。次の最終戦に勝てば初日通過ではないか。

スタンなのに。ていうか勝ち越しできたのね…やっぱ軽くて右手が回れば勝てるデッキは正義か。

なににせよ早々に2敗した時点でドロップしなくて良かった。

合間にフードコートでフライドチキンをひとつまみ。

スパイシーな骨なしチキンの唐揚げ60元。結構、量があった。



Round9 Zhangさん 白青緑カンパニー ××

2回ともちらの伸びが悪く、相手がブンブンと回って負け。

うん、これで終了。やはり2日目はありませんでしたが、夢が見られて良かったです。

士林夜市へ

そろそろ20時。では今夜はやはり士林夜市だな！ということで。

基本的に、自分はやはり1人でぶらぶら歩くのが好き（というより他人をそれに巻き込むのが嫌い）だし今夜は夜市の一角にあった筈の足マッサージに行くかなとも思っていたので1人夜市上等だったのだが、飯はやはり多人数でシェアするほうが楽しいのでそろそろ本戦終了の筈のGENさんやさわけんに声かけ。

結果、まだ本戦を戦っていたGENさんを待ってから、一緒に会場を出る。

MRTで圓山から劍潭までの1駅を移動（結構あるので歩くとか考えない）して下車し、さらに北に歩いて20時40分、士林夜市に到着。

地下食堂街へ

飯を食ったらGENさんとは別れる予定であり別に向こうにも異論はなかったようなので、さっそく飯にしようということで少し歩いたのちに「やっぱりここだよね」ということでいつもの地下食堂街に移動。

てゆーかここで飯を食うために士林夜市に来たと言っても過言ではありません。



「自分は割とつまんでいたなのでそれほどお腹は減ってないのですが、G E Nさんがお腹が空いているなら好きなものを頼んでそれを適当にシェアをするでいいです」ということにしたものの、結局は2人でどしどし色々頼む（笑）。



海老炒飯 80 元、牡蠣オムレツ 60 元。



小さい蟹を揚げたもの 150 元、臭豆腐 50 元。



これに GEN さんが他の店から買ってきたソーセージ系（甘い）を加え、20 元のコーラで流し込む。満腹。これで折半して 1 人 200 元ほど。これを幸せと言わずしてどうする。隣の店にさわけんらが居たが、合流するほどのことはなく食事を終え 21 時半。台湾最高。

至福のかき氷タイム

夕食を済ませたら、もうひとつのお楽しみの「台湾かき氷」タイムなのです。これを食べるのが自分が台湾に来た目的のひとつと言っても過言ではありません。

ということで2年前と4年前に来たかき氷店を探して外周を一周するも、なぜか目的の店が発見できません。潰れたのかな？仕方ないので同じようなメニューを提供している別のかき氷店にGENさんと入って、迷わず2年前にも頼んだマンゴーかき氷（140 元）と、あずきプリンかき氷（60 元）を注文。



このかき氷は1人では食べきれない位でかいので、2年前はアラジンさんも含めた3人でシェアしたわけだが今日はGENさんと2人でシェア。しかも結局は2皿頼んでいるから1人で1皿食べていることになる頭の悪さ。でも1人あたりたったの100 元。

しかしやっぱり、うまい。特にやっぱり、このマンゴーかき氷の**フワフワのかき氷**がやはり台湾ならではの最高なんじゃよー。うまいうまい。

GENさんと2人で2皿のかき氷を半分ずつつつきながらキャッキュフフしていたら、隣のテーブルのおばさん御婦人の2人がこっちを見てくすくす笑っていた。向こうもこのマンゴーかき氷を2人で分けていたし、日本人のようだったので「おいしいですねえ」「でも大きいから半分こしましたけど、結局2皿頼んでしまいましたよ（笑）」とか照れ隠しになごやかに会話をする。

…しかし後で考えたら、あの腐女子御婦人たちに僕ら**ホモ認定**されていたのでは疑惑。

士林夜市を一回りして帰る

地下の食堂街を出て、GENさんと分かれる。ひとりぶらぶらお土産タイム。

会社と自宅への土産用のパイナップルケーキを買ったり、「KUMA」とロゴの入っている



パロディTシャツ（どう見ても、日本人にしか通じません本当にありがとうございました）を買ったり、コピーの工口DVD屋がまだあるのを確認したり、2年前と4年前に居たインパクトのあった乞食（秒速土下座マンと十字路占有フリークス）がいないなー、とか思いながら、つらつら歩く。

しかしこの頃にはかなりそろそろ**足が痛み**を訴え始めていたので、結局は、一回りしてから劍潭駅に戻る。すでに22時を回っていたので、駅前の足裏マッサージ屋もパスして帰ることにする（そもそもこの痛む足を湯につけてマッサージとか無理）。

なぜかイージーカードが改札を通れなくなっていた。係員が見当たらなかったのも、仕方なくトークンを購入して乗車し、民権西路駅まで2駅。民権西路駅には係員が居たので、トークンを入れて改札を出たのちにイージーカードのデータを修復して貰う。

ホテルに戻り、就寝

23時過ぎ、コンビニで今夜の飲み物と足のための絆創膏を買ってから、ホテルに帰投。部屋でひといきつく。シャワーが3つとも塞がっていたので、しばし待つことに。その後、シャワーを浴びてさっぱりしてから、部屋に戻って痛む足のチェックを開始する。…うん、これはちょっと、明日起きたら対応が必要な状況だな。

しかし猛烈に眠くもなってきたので、日付が変わった頃に、電気を消してそのまま寝る。明日のG P参加プランと観光プランはほぼノープランだが、ま、どうにでもなろう。

2016年6月26日（日） GP 日曜の朝

やはり5時半に目が覚めてしまったので、起きる。

改めて足のチェックを開始する。

…うん、ちょっと危険な状態だね（ややグロ画像）。

靴ずれというか、血豆が破れかかっている状態だ。

とりあえず自分の旅行スタイルとしては歩き回るのが好きなわけであるから、たとえ雨天が予見されようともサンダルはともかく**素足に履いたのは失敗**だったという結論。

とりあえず靴を買うには及ばないにしても、まずコンビニかスーパーで今からでも靴下を求めよう。

足のほうは、とりあえずぶくぶくの血豆の上に絆創膏を貼って補強を応急処置とする。



補強を終えたので昨日のGP本戦の記録をDiaryNoteに書く。デッキを記録する必要のない日記はみっちり書いても1時間ほどで書け、日記を書き終わると7時。

今日の予定は決めていないわけだが、やはりスーパーサンデー予選シールドにエントリーするか。せっかく来たのだし、1000元ならまあ安い。でも中文版のデッキリストを登録するうえでシングルエリミだけど、まあ昔と違って今はデッキリスト登録は陽に「カード番号」ベースでやるので、カードが中文版でもさほど問題にはならないしな。やろう。

スーパーサンデー予選シールドのエントリーは8時から8時45分までなので、朝食には圓山駅でサンドウィッチを買えばいいし、8時半に会場に着けばいいな。ということで、そのまま30分ほど部屋で荷物の整理をする。

ホテルを出て移動開始

7時50分、歯磨きのため部屋を出ると、部屋を出てきた俗くんと会う。伊東さんとGENさんと3人相部屋とは聞いていたが隣の部屋だったのか。まあほとんどがカプセルのこのホテルで、「部屋」として提供されているのは壁際の10室ほどではあったのだが。



8時になったのでホテルを出る。まずはコンビニに行き靴下を探す。あった。55元。

そして足のコンディションを重視して迷わず大通りに出てタクシーを拾う。

運ちゃんに「花博公園」と紙に書いて渡し、少し走ってから70元を払って降ろされたが、周囲の風景に見覚えがない。どこだここ？

ほどなくグーグル先生に聞いて現在地が判明したのだが「花博公園」と言っても広いので、どうやらここは中央の美術館のあたりのようだった。そしてGP会場のエキスポドームは公園の一番西端。200mくらい西に歩く羽目になった。素直に「圓山站」と書くのだった。

エントリーと朝食

8時半に会場入りし、スーパーサンデー予選シールドにエントリーする。1000元。

そしてVIPエリアに座って靴下を履き、靴を固定。よし。これであと2日持ってくれ俺の足。基本、皮膚に深刻なダメージを与えていたのは表面での摩擦なので、これで保つのではないかと期待。





昨日の順位を確認。366 位で終了。

そして会場を出て朝食を買いに行く。今日もやるらしい青果市の準備している横を通して圓山駅前に行き、駅前の個人商店らしい所で、いかにも手作りのサンドイッチを買う。17 元。安い。

中身はシーチキンと卵とキュウリ。問題なく 50 円ならまったく満足できる内容。

あるいはメルボルンなら 500 円くらいだろうか？（笑）

食べ物の値段が日本の 2 倍のメルボルンと日本の半分の台北を行き来していて、巨人国と小人国を行き来した「ガリバー旅行記」のことを思い出す。

値段的には 2 個 3 個なり買っても全然構わないわけだが、むしろこれだけで空腹を満たすなんて**胃袋がもったいない**ので、やめておく。

スーパーサンデー予選シールド

9 時を回り構築のためのテーブルが発表されたので移動する。定員が 64 名だが参加者は 39 名であった模様。向かいの方（日本人）とチェックバック。

自分の取りレアはこう。アーリンさんがいなければ（マネー的には）壮絶爆死だった。

《奇妙な幕間》
《餌食》
《魂を飲みこむもの》
《アーリン・コード》
《聖トラフトの祈祷》
《処刑者の板金鎧》
《タミヨウの日誌》

中文版のアーリンさんを見ながら「あー…かかる事態を予想していたら、余ったサイン券を 2 枚とも渡さずに 1 枚は手元に残しておくんだった」と思った（笑）。

ともあれ構築開始。

アーリンさんを生かすべく、それほど尖っていない赤緑狼で。

取りレア

Creatures: 15

《スレイベンのガーゴイル》
 《燃えさし眼の狼》*2
 《内陸の木こり》
 《ラムホルトの平和主義者》
 《偏執的な皮剥ぎ人》
 《吠え群れの狼》
 《荒原のカカシ》
 《狂気の預言者》
 《火の獵犬》
 《魂を飲みこむもの》
 《遁走する馬車》
 《ガツタフの放火魔》
 《茨隠れの狼》*2

Spell: 8

《未知との対決》
 《別れ道》
 《信条の香炉》
 《靈魂破》
 《吠え群れの復活》
 《処刑者の板金鎧》
 《邪惡な囁き》
 《アーリン・コード》

Lands: 20

《ねじれ地帯》
 《山》*8
 《森》*8

Sideboards:

《両手撃ち》
 《厳格な巡邏官》
 《平地》

構築デッキ

シングルエリミの6回戦を全勝なんて無理に決まっているにしても、わざわざデッキ登録までして1没はしたくないよね…ということで目標を1勝に設定。さてどうなるか。

Round1 BYE

1回戦のペアリングを見て吹く。**BYEが24人。**

ジャッジが「BYEが非常に多い」と言っていたのは、
 こういうことか。シングリエリミで決着をつけて、
 後からドロップ以外でのBYEをなるべく出さないとい
 うのは、こういうことなのだな。

対戦しているのは7卓14人。BYEのほうが多い。

ともあれ、これで目標の1勝を達成した（笑）。

Event Reporter 4.3.4.577
 Pairings by Table
 GP Taipei 2016 Sunday SSS Sealed Qualifier (16-06-835538)
 Date: 2016/06/26 9:50 AM
 Information:

Player	Opponent	Points
Huang, Rocket	***bye***	
Imai, Ayato	***bye***	3
Inoue, Toru	***bye***	3
Cheang, Kai Lok	***bye***	3
Hsu, Ping	***bye***	3
Ruan, Paul	***bye***	3
Wang, Haokang	***bye***	3
Tamber, Tobey	***bye***	3
Sugaya, Hironobu	***bye***	3
Kondo, Hirotsugu	***bye***	3
Lee, Kin Suen	***bye***	3
Boss, Matt	***bye***	3
Hsu, David	***bye***	3
Ishida, Ryuichiro	***bye***	3
Kiwanont, Sukhum	***bye***	3
Chiong, Marvin	***bye***	3
Harada, Makoto	***bye***	3
Hou, Lei	***bye***	3
Chen, Wedman	***bye***	3
Po Chuan, Shen	***bye***	3
Hori, Masayuki	***bye***	3
Chen, James	***bye***	3
Ishii, Taisuke	***bye***	3
Yeh, Hugo	Yeh, Shen-chiun	0-0
Xiao, Diyu	Nolte, Matthew	0-0
Wang, Dengke	Fukushima, Masanori	0-0
Kadono, Satoru	Zhou, Wenbo	0-0
Chong, Kiat Chau	Speck, Jaryd	0-0
Li, Fabien	Zhao, Tian Yu	0-0
Takao, Shota	Wu, Yan Feng	0-0
Liguo, Lu		
Jiang, Yida		

Copyright © 2016 - Wizards of the Coast LLC

Round2 白緑 ○××

G1 板金鎧が無双できて勝ち。

G2 板金鎧が出たものの、生物がぜんぜん出なくて負け。

G3 板金鎧で押して、人間が死んで出たスピリットに板金鎧を出して空から殴る構え。

相手は有効な対空防御を持たず、ここであと1点余計に殴れば勝てる…ところで相手のライフ計算を間違え、手札の《未知との対決》を打てば勝てることをまだ1点余計にあると考え、これを打たない致命的な痛恨のミス。相手のライフが「1」になった後で「あ」と気が付いた。もちろん競技だから相手はすでにほとんど勝負を投げていたとはいえ「あ、やっぱりこれ打ちます私の勝ちです」は通じまいので、そのまま見送る。

基本的にはここで勝てるゲームを明白に落とした。そして**拷問タイム**が始まった。

次のターンで相手は《倒し霊》を出し、すでに昂揚を達成していたのでこれで空からは殴ることが不可能になり、地上はがっちり固められており向こうの方が多い。

そして何よりもこちらはそれから延々と土地だけを引き続け、それを《厳格な巡邏官》で捨てて相手のデカブツ1体の攻撃を防いで1体は通すみたいな展開が続く中、相手は毎ターンクリーチャーを置き《不屈の追跡者》を置き《サリアの副官》までも置く。

こちらが《倒し霊》を除去できるか本体火力の1枚でも引けば即座にあちらの負けとはいえ、こちらが明白に何もできない状態で相手がドロローして「…ふう」とため息をつき1体クリーチャーを（小さい奴でも）置きつつ殴ってきてライフがちょっとずつ削れたのが数ターン続いたのは、はっきり言って辛かったです。ていうかもうフルパンすれば君の勝ちなのでさっさと殺してください。この環境《濃霧》もないんだし。

最後に相手は引いた《邪悪の暴露》で2体タップしこちらのブロッカーがゼロになった所でフルパン。自分はマイナス10点くらいになって死亡して負け。

向こうにしてみれば脳汁が出た勝ち方だったろうけど、はっきり言って辛かったです。

ともあれ、これで自分のスーパーサンデー予選シールドは終了しました。

ツイッターが突然の不調

基本的に海外 GP に参加中は、自分は DiaryNote やこの本のための記録のためにも、普段よりも多めにつぶやいているのですが、このスーパーサンデーの間はまったくつぶやいておりません。実はこの時は、なぜかまったくツイッターが返ってこない状態で困っていたのでした。結果的にはこれは**ツイッターのせい**で、実際、この本も読み返すと金曜の朝も原因不明で1時間ほどつながらなかったりしていたのですが、去年の GP 香港で「SIM のデータ上限に引っかかってしまった」件を思い出していた自分は、これを「中華電信のせい」と思い込んでしまい、確か5日間使い放題パックを購入したはずだが変だな、とか思いつつ、その可能性を検討しないままコンビニに行って中華電信に追加チャージをしようとしてうまくいかなかったり（コンビニの店員が電話でサービスセンターに聞きながらチャレンジしてくれました。感謝）、ここから歩いて5分の中華電信の営業所ならばできるのでそこに行けと言われたので行ってみたら「日曜休み」だったりして、いささか無駄な時間を過ごしてしまいました。

いささかバニクったとはいえ、別のアプリを起動すれば一発で「悪いのは通信でなくてツイッター」と気がついたのに、なぜそれを試さなかったのだ俺…。

まあ結果的には**中華電信は無罪**であり、それからツイッターは、時折まったく返ってこなくて2時間ほど放置すると通信が復活するような状態で、この残り滞在中は不自由を感じながら使い続けることになりました。基本的には、送信できないのは承知のうえで、しばしば時刻を手打ちで記録して写真もつけたものを「下書き」に残すようにしました。あとでそれが通信が復活していつぺんに送信されていたようなこともしばしばでしたが。

フードコートで昼飯

スーパーサンデー予選シールドは終了したので、もうドラフトくらいしかやることはありません。しかしタイミングが悪かったのか、

「エタマスドラフトはいま何人エントリーしていますか？」

「いま立ったのであなたが1人目です」

「ではSOIドラフトは？」

「いま立ったので（略）」

…そろそろ正午になるので、まずは昼飯にするかと思い至る。



フードコートの出鱈目なメニューにくすりと来たので、
「カツカレーか…」と思いつつネタで頼んでみる。130 元。

しかし出てきたものを見て、やはり失敗だったかなと思う。
普段僕が**学食カレー**と呼んでいる内容の味で、わざわざ
日本から来て食べるべきものじゃないです。



まあ、**たこ焼きの店**で出しているカレーと
いう時点で、最初からお察しな案件。

別に腹を立てるほど高いものではない（現地
価格的には安くないけど）にしても、こんな
もので胃袋を満たしてしまったのが勿体ない。



似顔絵

昼飯をそそくさと食べてまだ暇だったので、青果市の隅でやっていた似顔絵屋に頼み、ネタのために自分の似顔絵を描いて貰うことにしました。

たぶんアラジンさんが2年前に頼んだひとと同じひとだろう。200 元ならネタとしては高くない。

10 分ほど描いて貰って、受け取る。

画家の眼は時に自分では**見たくない真実**を描いてくれる。

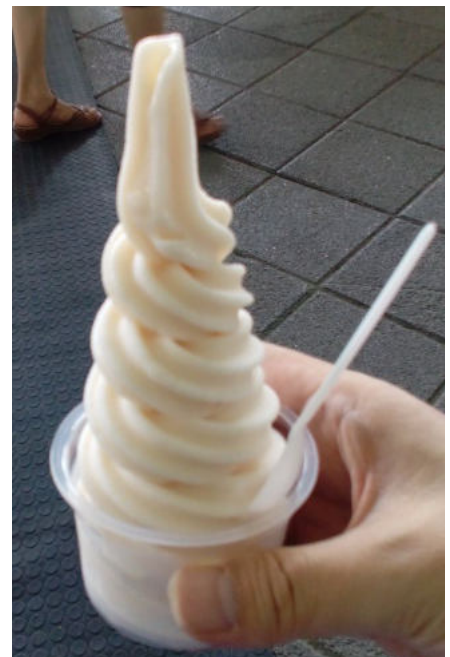


無料のSOIドラフト

13 時に会場に戻る。1 時間たったらどうかなと思って再度ドラフトの待ち人数を聞くとエタマスも SOI も「あなたが 1 人目です」。orz

海外 GP だから覚悟はしていたものの、このままでは昨日貰ったドラフトバウチャーすら無駄になりかねないと思ったため、バウチャーを出して SOI ドラフトポッド 5 にエントリーしてから、ぶらぶら会場を歩いたりして時間を潰すことにした。

市でソフトクリームを買う。バニラかと思って食べたらすっぱい味だったのでよく見たら「梅味」でした。これはこれで悪くないです。35 元。



そしてどうやら 30 分ほど待ったら SOI のドラフトが立ったので参加。単にタイミングが悪かっただけで、日本人も多かったし比較的立つほうなのかな…とは思った。同じ卓に GEN さんが居た。

ピックや対戦の記録を取らなかったけど、特に特徴のない白赤を組んでまず 1 勝。しかし 2 戦目の相手が、無茶苦茶に強い完璧な青ライブラリーアウトを組んできて完敗。ちなみに GEN さんはその相手に勝って全勝。よく勝てたなあれに。ともあれこれで、無料の SOI ドラフトは終了。

次の SOI ドラフト

ドラフトを終えると 15 時半。まだもう 1 回くらい参加できるだろう…と思いつつ人数を聞くと、エタマスドラフトは 0 人で SOI ドラフトは 2 人待ち。お金はあるんだからもう 1 回くらいエタマスドラフトやりたかったなー、と思いつつ SOI ドラフトのほうに 500 元払ってエントリー。台湾観光ガイドを読んで今夜の行動予定を立てつつ待つ。

ツイッターの記録が残っていないので正確な時間は不明なのだが、1 時間ほど待った頃に立った SOI ドラフトに参加。今度も特に特徴のない白赤を組み、今度は一没して終了。

艦これですか？

ところで今回の訪台で自分は、台湾の誰かが反応しないかなー、とも思ってあらかじめ「蒼き鋼のアルペジオ」の T シャツを数枚持参して対戦中は身につけており、さらに G P



本戦ではさすがに遠慮したものの、サイドイベントは常に「ハルナ」のキャラスリで臨んだものでした。もっともこれに反応した対戦相手は居ませんでした。

なのですが、空き時間にジャッジ達と雑談していたところ、とある海外のジャッジがこれを見て「艦これですか？」と言ってきたので、一緒にいた瀬野さんと「ちゃいますこれアルペジオという日本のアニメです」と返す。そこまでは良いのですがその後で「キリシマでしたっけ？」と言った

瀬野さんは同じ**アニオタ仲間としては許せん**（笑）。

…しかし後で瀬野さんと「よく考えたら、何でこの絵だけ見て『艦これ』かなと思えたのかなあ？」という話になる。2年前の艦これとアルペジオのコラボをやったわけでもないようだし、そもそも本編も観てないのに**これも艦娘**だとなぜ分かった（笑）。

まあおそらく構図と、あとハルナの黄色の背景は、艦これのレア艦の登場絵に見えなくもないというあたりか。しかもよく見ると背景に六角形まで描かれている。

GP 会場を離脱

まだ 17 時前だったので、あるいは最後にドラフトをもう 1 回…と思って人数を聞くと、エタマスも SOI も「あなたが 1 人目です」「あなたが 1 人目です」。

あるいはドラフトは 30 分～1 時間に 1 回は立っており自分が常にタイミングが悪かっただけなのかもしれないのだが、さすがに「もういいや」と思い、これで GP は終了として会場を離脱することにする。

あるいは 1 人目だろうが躊躇せずに登録してひたすら呼び出しを待っていれば、あるいはエタマスを含むドラフトにもう 1-2 回は参加できたのかもしれないけど、さすがに日本の GP と違ってドラフトだけやるのは効率が悪すぎるような気がしました。

結局サイドイベントのプライズは80 チケットで終了。特に誰かのポイントを足して良いものを、というほどの賞品が見当たらなかったもので、Tシャツ 60 チケと、中文版のBFZ ブースター 2 個を貰って終了とし、会場を離脱する。

迪化街でカラスミを買う

今度の台北では土産に「カラスミ」を買ってみようと思ったので、観光ガイドを読んで「迪化街」の評判の良い店の「永久号」で買おうというプランを立てる。

このため会場を出て、MRTで圓山駅から中山駅を経て北門駅へ。

北門駅から地上に出ると案の定「ここから歩いて 10 分の迪化街ってどっちだ？」状態になったので、無理をせずタクシーを拾って、ほどなく初乗り 70 円で迪化街に到着。

時計は 18 時。迪化街は問屋街だそうなので、目的の店でカラスミを買ってからぶらぶらと買い物を楽しめないだろうかとか考える。目についた薬屋でタイガーバームを自宅土産用に買う（女房が所望していたのだ）。大き目の瓶を 2 色それぞれで 170 元。



観光ガイドによると目的の「永久号」という店は「永樂商場」という市場の中にある、ということだったので、ではその永樂商場を探そうと探索を開始。

ほどなく発見された永樂商場はなんか**改装中**で、中に入っても 1/3 くらいしか店が開いていない。うーん…と思いつつ回って、それらしい店が発見できないので外の屋台街で「永久号」を聞く。

英語のできるおばちゃんに「その店はこのビルの中じゃなくて、ここから出た隣のブロックの中の商店街の中にある」と教えられる。感謝。

そして教えられた場所に行くも、ここもほとんどの店が閉まっていて薄暗く、しばらく歩いてから判明したのは目的の「永久号」という店は

日曜休みだったという単純な事実だった。



さてどうしたものかと思うも、ふと見ると隣の別の店の「からすみ」という看板がある。

仕方ないな、と思ってここに入る。中に入って値段を聞くと、観光ガイド本に載っていた隣の「永久号」の値段とまったく同じだ（つまり、そこそこいい値段だと思える値段）。

これは単純に競合相手の隣店に合わせただけと考えられるものの、あるいはここは僕のような「隣を目当てに日曜日に来た観光客からカモるつもりのお店」で、あるいは隣店より質の低いからすみを同じ値段で売っているのではないか？ という**疑念**が瞬時に浮かんだものの

（抜け目がないというよりは性格が悪いなあおれ）、基本的にからすみの良し悪しなんて全く分からない身としては抗いようがない。

もし後からそのような事実が判明したら晒しちゃうと思いつつ、にこやかに名刺を貰い、写真を撮影しつつ、土産と自分でも食べてみる分の2個を購入。

西門町へ

カラスミを買い18時半。薄暗くなってきたし、夕食はここの永楽美食中心（フードコート）も開いていないようだしどうしたものか…と
思ってから「そうだ、ここからなら西門町が近い」と気がついた。

あそこなら夕食もどうにでもなるだろう。

さっそくタクシーに乗り、ほどなく西門町に到着。指定はしなかったが、かつて知ったるオタクビル「萬年商業大楼」の前だった。



さっそく萬年商業大楼に入り、最上階に上ってから1フロアずつ降りて店をチェック。
しかし基本的に、特筆すべきものなし。2年前にはあった、コピーDVDの日本のAVを
1枚20円で売っていた店も、もうなくなってしまっていた…。

ていうか萬年商業大楼は「オタクビル」を名乗る割にはいつ来ても**カップルばかり**
なんだよここはよう！（なら来るなよ）

フードコートでステーキを食らう

萬年商業大楼では特に何も買わなかったものの、地下にフードコートがあるのを思い出す。
時間は19時。うん、もう夕食はここでいいや。

ひと通り回ったうえで、いまの自分は「がつつり肉」が食べたいという結論になったので、
ステーキ屋に入り「厚切りステーキセット」を注文。270元というのは、台北飯にしては
だいぶ奮発した部類であろう。

スープと前菜に続いて、待望の肉が到着した。うむ。わくわくしながら、ざっくりと肉をカットして、口に運ぶ。



…そうだった。台北ではなぜか**肉を甘く味付け**するのだった。

自分は基本、肉は塩コショウで味わうのが一番おいしいな主義で、日本のレストランでもステーキソースの類はかけずに食べることが多いので、これにはだいぶがっかりする。

断面などを見ても**かなりいい肉**を使っているように見え、いや実際にそれなりに旨いのですが、それでも自分としては「甘く味付けしないほうがこの10倍はおいしいのに」といささか残念な気持ちを感じながら平らげる。

今夜も食後のマンゴーかき氷



ステーキ屋を出ると、かき氷屋があったので迷わず入店。秒で座って、マンゴーかき氷を頼む。110 元。

内心「士林夜市よりも少し安いな」とも思いつつ食べ始めたものの、安い理由はほどなく判明した。

サイズがいささか小ぶりではあったのはともかく、**フワフワではない**のだ。

いやもちろん、ただのかき氷でも十分に美味しいのだが、これは士林夜市の奴と比較して

勝負になるものではなかった。

それでもマンゴーかき氷をおいしく完食して、萬年商業大楼を出る。

…もう無理に来る必要はないかなあ、萬年商業大楼。

サウナに行こう

萬年商業大楼を出ると 20 時。まだこの町としては宵の口であろう。

とりあえずまだ開いているだろうからアニメイトに行って台湾版のアルペジオでも探すか、
と思って西門町の駅前に行って、駅前通りを南北にうろうろ歩いて探すも、アニメイトが
見当たらない。あれれ？と思ってネットで検索すると、アニメイト台北店が移転していた
ことが判明して「もう歩きたくないしタクシーで行くほどじゃないよね…」と力尽きる。

実際には、そこからはその大通りを向かいまで地下から渡って（これが割と面倒だが）、
さらに何百メートルか北上するだけだったので徒歩で行けないこともない距離だったの
ですが、若干スマホの地図の距離感を読み違えていたのと、足が死んでいた。

20 時半。まだ寝るにはだいぶ早い時間だったので「やはりこれはサウナとマッサージに
行くしかあるまい」という結論に達する。



いったんホテルに戻ることも検討したものの、今日は
ほとんど買い物をせず、カラスミも背中のリュック
サックに収まっていたので、このままでサウナに直行
することにする。

このためタクシーを拾って中山駅まで移動してから、
かねて調べておいたサウナ「金年華三温暖」に行き、
入店。

ところで懸命な読者はお気づきのように、ていうかこの店の名前でぐぐれば一発ですが、ここはいわゆる「性風俗サービスもやっているサウナ」です。

なんでただのサウナ風呂ではなくて、わざわざ調べてこの店に来たのかと言え、まあ、基本的にはちんこがうずいてこの本のネタのためではあるのですが。

入浴料は500 元ですが、最後に会計するシステム。さっそくロッカーで着替えただうえでお風呂に入り、たっぷりお湯を使って身体を洗い、数日振りの風呂をたっぷり堪能して、薬湯やサウナも堪能。

いやあ、やっぱ風呂いいなあ！ シャワーとは疲れの取れ具合が違います。

日本のサウナの値段を考えれば、それほど高いとも思えない値段だし、つかみはOK。

スペシャルマッサージ？

一通りのお風呂を堪能すると、身体を拭いてバスローブを着用し、その奥の待合室へ。

いよいよネタ拾いタイムの開始です。

無料のコーラを飲んでソファ椅子に座って周囲を眺めていると、ほどなくオバチャンが登場。他の客に声をかけ、時折その客と一緒に奥に消えて、また1 人で戻ってきます。

そしてやがてそのオバチャンは自分にも「スペシャルマッサージ？」と勧めてきました。

キタキタキター！ はやる心を抑えつつ「いくら」と聞くと「4200 元。ただし入浴料の500 元がサービス」とのこと。ネットで読んだ通りの料金だが、なぜ最初から3700 元と言わないのかは、いささか謎だ。

「どういうサービスなの？」と聞くと「30 分はマッサージ。30 分はせっくす」との答え。

ド直球ですね。それはお値ごろですね。いやあ僕のちんこが元気ならそれはそれとして、メニューの「足マッサージ40 分700 元」というのをオーダーすると「マッサージするの男ですよ？」と言われるも、そのままオーダー。隣室にて普通に施術を受ける。

足の皮が危機的状況なので今回は台北名物の足裏マッサージは全スルーしたわけですが、歩き疲れたふくらはぎを風呂あがりにたっぷりとマッサージして貰い、幸せ。

マッサージを終えて再度ロビーでコーラを飲んでくつろいでいると「**近藤さんじゃあ
ないですか**」と声をかけられる。名前は出てこないが、大会では何度か見ている方だ。
ていうか向こうは普通にこちらの名前を覚えているわけで。

仕方ないので「いやぁ、こんな所で会うなんて奇遇ですねハッハッハッ」と返しながら、
相手のことも詮索せずに、そのままそそくさとロビーを出て会計を済ませて終了。

ポイント：こういう所では、紳士のたしなみとして会っても他人のフリをしましょう。

就寝

サウナを出てからタクシーを拾って「民権西路」を指定して、ホテル近くで降りてから
（もう地理は把握した）、コンビニに寄ってアイスと飲み物を買ってから、23 時前には
ホテルに戻って、ロビーでアイスを食べってから自室に戻る。ふう。

もちろんシャワーを浴びる必要はないし、さすがに気持ちよく睡魔が襲ってきた。

明日の予定を確認。基本ノープランだが、まあ 11 時には桃園空港に居たほうが良く 9 時
にはチェックアウトしたほうがいいから、基本、起きたら帰るだけだな。それでいい。

帰りの荷物オプションを何キロ申請していたんだっけかなぁ、必要ならいまのうちに増量
しなくちゃなと思うも、バニラエアのメールにはオプションが明記しておらず、なぜだか
サイトも自分の予約番号を入れても検索結果が返らない。うーん…まあ仕方ないな。

23 時半には就寝する。

2016年6月27（月） 帰国日

6時半に目が覚めた。ぐっすり快眠。やっぱり昨夜のサウナは正解だったな。

本日の予定を再確認。守らねばならないのは12:35発の飛行機に乗ること。逆算して、10時半には空港に着きたいこと。さらに逆算して9時にはチェックアウトして台北駅に向かいバスに乗ること。つまりあと2時間ある。

ま、昨日のGP日記と荷物整理をやって終わりだろうが。

1時間ほどGPプレイ日記を書いて、DiaryNoteにアップロードして8時前。

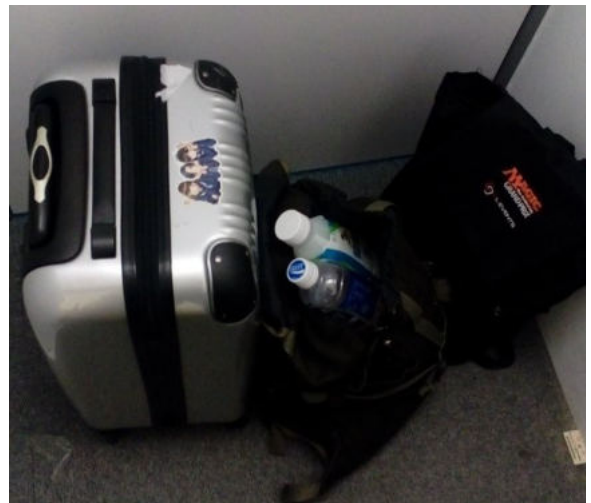
よし、では荷造りと支度を済ませ次第、空港に向かおう。タイムリミットは1時間だが、のんびりこのホテルに居る意味もない。それくらいなら空港でのんびりしよう。

てゆーかホテルを出てそろそろ台北駅でも朝飯にしたいよね…。

昨日は一日中靴下を履いたため、結構歩いたものの足の靴ずれはほぼ問題のないレベルにまで回復した。とはいえあと1日。絆創膏を貼りなおして、今日も一日靴下を履こう。

8時40分、荷造り終了。貰ったVIP用MTGリュックにちょうど一杯になるくらい土産が増えた感じ。

どのみち帰りの荷物は手荷物で済ませるのは無理なので、機内に預けることになる。



台北駅へ

8時50分、チェックアウトしてホテルを出た。支払いはクレカ決済である模様。



ホテルのフロントで日本でも常用している「黒人」の歯磨きを売っていたので、小ぶりではあるが購入。39 元。現地のひとが利用するスーパーマーケットに行けなかったのが、今回の台北での失敗のひとつ。

足も回復したし、タクシーを使うほどでもないのでカラコロを引いて民権西路駅に入る。MRT の構内は涼しいしね（MRT にした最大の理由）。淡水信義線で台北駅まで。

台北の地下鉄に「降りる人が降りてから乗って」の掲示。しばしば音声アナウンスでそれを言う日本。誰もそんなことをしない上海。



台北駅ダンジョン

9 時に台北駅に到着。まあ余裕だよね、台北駅の地下構内で軽く朝食にしてから高速バス乗り場に移動するのも良いかなと思いつつ高速バス乗り場を目指して移動するも、やはり台北駅地下ダンジョンで**迷う**。常に現在地と目的地を確認しながら歩いている筈なのに、たった西に 200m くらい地下道を歩くだけなのに、さっぱり目的の所に近づけないのはふしぎふしぎ！（地図では分かりにくい頻繁な上下移動を伴っているためです）

まあ台北駅で「Bus」の掲示を探してしまい、結果ほぼ駅の反対側にある市内各所行きのバス乗り場を探してしまった前回・前々回よりも方向が合ってるだけ数段マシなのですが（2 回もやったのかよ、そのミス）。

桃園空港行きの高速バスに乗る

結局は、今回も地下から国光客運の高速バス乗り場の近くまで到達するのを断念して、いったん地上に出してから 100m くらい歩いて 9 時 20 分、国光客運ビルに到着。優雅に涼しい地下で朝食ショッピングとか、今回も無理だったよママン…。

次回こそはと思わないでもないが、さすがに 2 年後には桃園空港と台北駅を直結する MRT 桃園機場線が開通しているだろうから、多分この国光客運の高速バスを利用することも、もうあるまい…。



125 元を出してカウンターでバスのチケットを買って並んで、荷物を預ける。運ちゃんに早口で「ターミナルは？」と聞かれて（調べておくのを忘れて）即答できずに、うっかり「2」と答えてしまった。多くの空港では 1 が国内線 2 が国際線だったりしたためですが、実際にはターミナル 1 でした。ていうか乗車機のターミナルは確認メールに書いておいて欲しかったですバニラエアさん。

9 時半にはバスが出た。1 時間後には空港だ。いまのところ、余裕。

実に快晴の暑くていい天気。結局、台北での 4 日間中は雨らしい雨には遭遇しなかった（金曜夜に会場を出た時に少し地面が濡れていただけ）わけだが、事前の週間天気予報の「連日、降水確率 100%、最高気温 29 度」というのはいったい何だったのか。まあ一瞬だけ夕立が降っても「降水確率 100%」だけど、気温は完全に外したよね。

桃園空港で朝食

10 時過ぎに桃園空港ターミナル 1 に到着。運ちゃんに謝って「すまんさっきターミナル

2 と言った」と言って荷物を出して貰った関係で降車が一番最後になったが、問題ない。ともあれ地下のフードコートでまずは朝昼兼用飯にしよう。

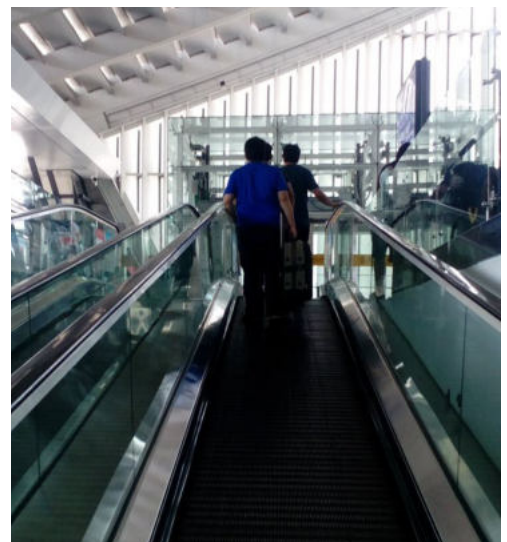


実は今回は、2 年前に「このフードコートで向かいのお姉ちゃんが食べていた 1 人火鍋」（GP 台北 2014 本を参照）というのがあったので、それを狙うかと思って探したのですが、どうやら目的の店らしいものはあったものの、メニューを見るとどうも「野菜火鍋」「健康火鍋」とかのヘルシー指向の店らしく（なるほど女性おひとりさま用か）、何より「いま準備中なので、あと 15 分は待て」と言われてしまったので見送り。そこに堂々と「10 時に営業開始」と書いてあるのはいったい…。

別の店を探すも、空腹だし面倒になってきたので**もうバーキンでいいや**ということで、バーガーキングに並んでダブルバーガーセットを購入してもぐもぐする。食事を終わると 10 時半を回る。あと 2 時間を切ったし、搭乗手続きに進もう。

搭乗手続き

フードコートからいつもの長いエスカレーターで、搭乗フロアまでを上る。バニラエアのカウンターの待ちは 100 人くらいか。ま、こうなるよね。今回は、旅行鞆と貰った MTG リュックを預けて、機内持ち込みはいつものリュックのみ。さてさて、今回の荷物増量は何キロになったのかな…。





11 時過ぎに自分の番が来た。カウンターで荷物を測定すると 12 キロ。特に増量の申告はなかった（あれ、そうだったかな？）ので 10kg からの超過料金として 1500 元を請求される。ま、仕方ないね。1 万 6 千円というわけでもないし素直に支払うことにする。

のだが、ここでクレジットカードを切って決済というわけではなく、用紙を手渡され「これをエバー航空の支払いカウンターへ持って行って払い、その領収書を持って再度ここに」という指示。そんな提携をしていたのか。このため荷物をカウンター横に置いた状態で

その場を離れて、支払いを済ませて戻ってきて、それを見せると係員は荷物を送り、自分は荷物タグを含め航空券を受け取って終了。いささか非効率と思え面倒くさかったけど「もう一度最後尾に並べ」とかいう話でもなかったので別にいいや。

出国



荷物を預けたその足で出国ゲートへ。

まだ朝の薬を飲んでいなかったことに気がついたのでセキュリティの前で呑み残しの健酪のドリンクを開封して薬と一緒に飲み、勿体ないが残りは捨てる。

11 時半、セキュリティを通過し、イミグレを通過。これで台湾は出国したことになった。

あとは免税店で土産の酒を買ってから B3 ゲートに行って飛行機を待つだけだ。

離陸

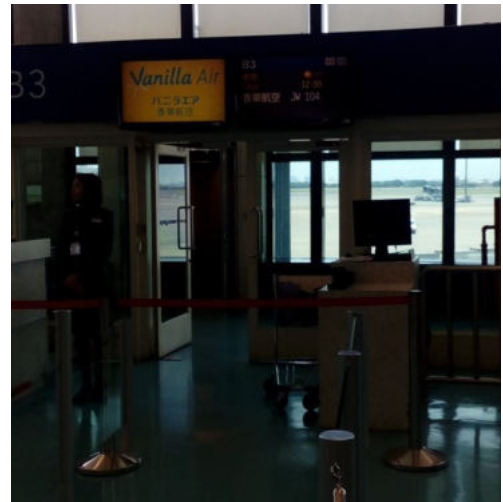
免税店で土産の酒を買い、B3 ゲートへ。

30 分くらいぶらぶらした後に、何ごともなく搭乗。

あとは五体満足で帰れば良い。

しかし正直な所、最終日が実質移動だけで終わってしまうのは割と勿体無いので、あるいは月曜の午前 5 時に台北を出る弾丸スケジュール便で良いのではないかと思えなくもなく。月曜午後から働く気などないにしても、昼からゆっくり自宅で休める。

昼に台湾観光を楽しめる月曜夜に着くもっと遅い便にすると、今度は火曜会社に行きたくなくなるしなあ。悩む。



機内で着席。たった 4 時間のフライトとはいえ、通路側なのはトイレに立つうえで有り難い。

結局、朝からバーキンしか口にしなかったのが夕方まで持つかないと思わないでもなかったが、まあスナック菓子を機内で注文すればいいか。我慢するほど上乗せしてあるものでもない。

12 時 50 分、何ごともなく JW104 は離陸。さらば台湾。楽しかったよ。次は 2 年後かな。

帰国

機内で日本円を入れたジップロックを取り出して、中身を財布の中の台湾元とイージーカードと入れ替えて日本円を財布の中に入れる。財布の中の現金 2 千元ほどは、2 年後にまた来るだろうからとわざと残した（最後の土産の酒もカードで買ったりした）。

さらにスマホの台湾 SIM を日本の SIM に交換したら、バッテリーを外した関係で時計がリセットされてしまった。当然ながら現在時刻を電波で拾うことはできない。

このため CA を呼んでスナック菓子を購入し、レシートの時刻をスマホに入力して時計を日本時間に合わせる。現在、日本時間で約 15 時（ここからは日本時間で記します）。

17 時 15 分、何ごともなく機は成田に到着した。

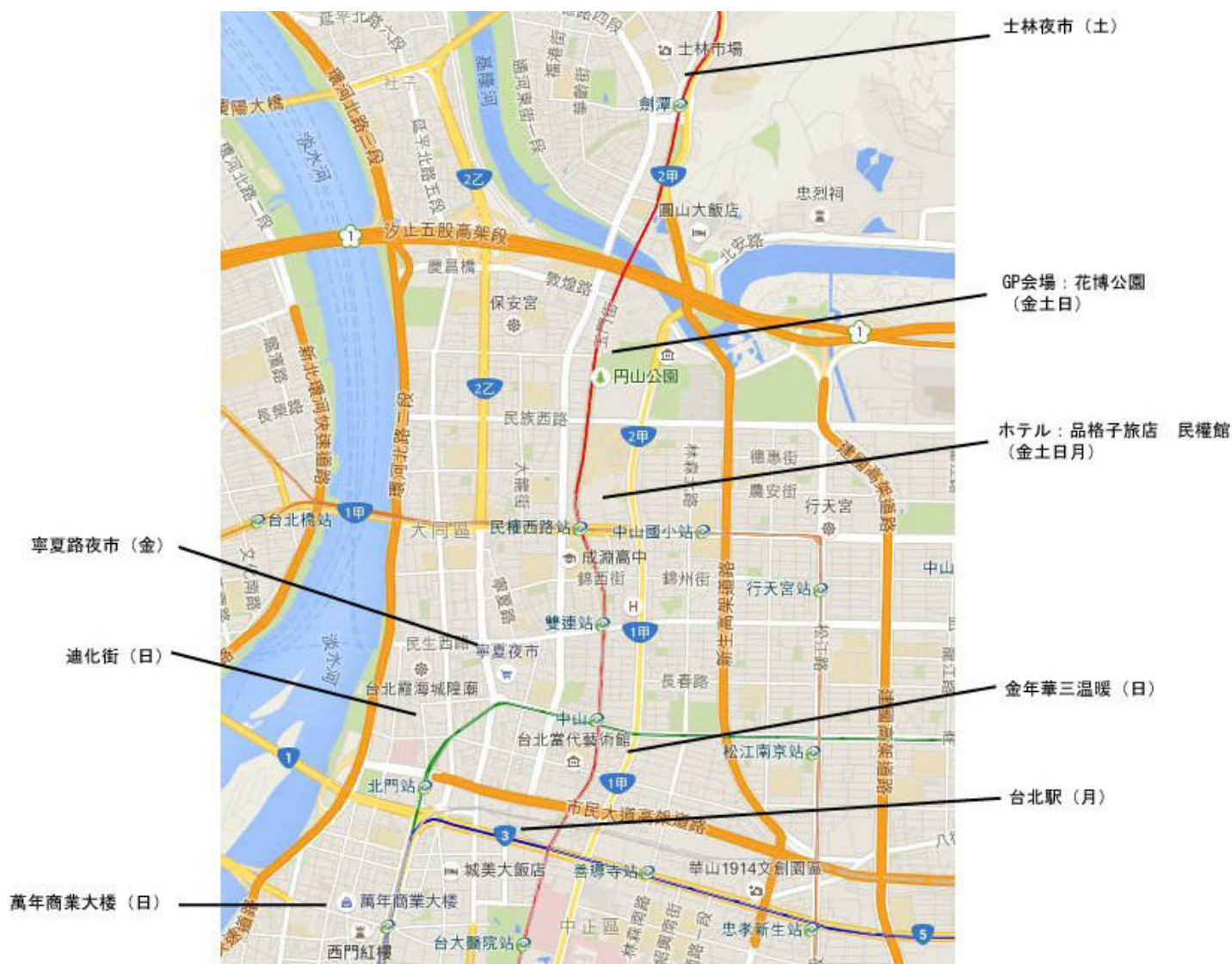
何ごともなくイミグレを通過し、機内荷物を受け取り（レーンから、ほぼ先頭で 2 個とも出てきた。むしろ驚いた）、税関を通過。

18 時 2 分発の総武線に乗り、19 時 15 分に新小岩に到着。

新小岩南口駅前でタクシーを拾い、19 時 25 分、我が家に帰宅。

お家に帰るまでが GP であり、これで今回の GP 台北 2016 も終了しました。

（完）



GP 台北 2016 参加記 (v1.00)

発行：新小岩マジック <https://twitter.com/kondohi>

発行日：2016年8月15日

印刷所：日光企画

本書の文章や写真などの無断転載を禁じます

筆者（近藤博次）について：

<https://twitter.com/kondohi> （ツイッター。最近はここメインです）

<http://otakutalker.diarynote.jp/> （ダイアリーノート。マジック関連はここで）